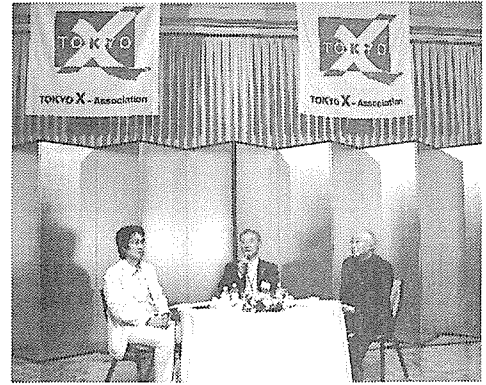


東京Xが総会と10周年パネディス、消費者交流会に230人参加



(株)ミートコンパニオンが全面的にバックアップしているTOKYO X—Association(植村光一郎会長・以下東京X)は11日午後、東京都内の東京プリンスホテルで平成21年度総会、東京X創立10周年記念のパネルディスカッション(写真中が植村会長、右服部校長、左松木名誉教授)を「食とアニマルウェルフェア、そして日本の農業」のテーマで実施するとともに東京Xの消費者約150人を含め約230人が参加しての交流会が盛大に開催された。

総会で植村会長は「20年度は7380頭の出荷を確保し、21年度は8千頭を目標に計画を進めている。流通面は185店舗を認定してブランド推進販売に取り組んでいる。今年度は10周年を迎えるが、第1次ブランド化戦略では食べていただく。第2次では生活に根ざしたブランド化を推進し、東京Xの美味しさを問うてきた10年だった。これまでの10年を礎に、これからは美味しさの訳を問う10年にしたい」とあいさつ。来賓では東京都農林水産部の生形稔部長が「東京のブランドと言えば東京Xが出るほど有名になった。これはXアソシエーションと生産者の努力の成果である。都としても年間2万頭体制を掲げおり、都と都農水財団、生産者、アソシエーションの4組織が一体となり都民に安心・安全な豚肉を供給していきたい」と、(財)東京都農水産振興財団の久保田経三理事長は「10周年おめでとう。養豚界と食肉のルネッサンスであり、10年前は予想も出来なかった。これも関係者の賜物だ。一昨年度から2年間で70頭の種豚のDNA鑑定を実施し、今年度も50頭を計画しており、今後は食肉についてもDNA鑑定により消費者に東京Xを供給したい」などと祝辞。21年度事業計画を承認後に任期満了となった役員改選で、植村会長、横山雅美副会長、理事5人、監事及び幹事・書記2人が選任された。うち新任は理事の北村陽三(株)セントラルフーズ)、幹事・書記の小石隆二(株)ミートコンパニオン)の両氏。

続いて、服部栄養専門学校(株)の服部幸應理事長・校長、日本獣医生命大の松木洋一名誉教授、植村会長によるパネディスカッションでは、植村会長を進行役に服部氏が「食育の大切さは幼い時からの教育が大切で、大学生くらいになると遅過ぎる。昔の家族の良さと食生活を見直すべきだ」。松木氏は「東京Xは安全な食肉であり、動物福祉の考え方を導入している。EUは2010年には“ウエルフェアブランド”のラベルを貼った食肉を輸出していく。ターゲットは日本であり、わが国も早期の動物福祉ブランドに取組むべき」と指摘した。総会では(株)二幸、(株)人形町今半、(株)セントラルフーズの3社、榎戸武司、吉岡幸彦の2氏が10年間の活動に対する貢献で表彰された。